

ソウルロ (Seoul - ro) 7017

ソウル駐在員事務所
洪承元

韓国で産業化が進められた 1970 年に竣工し、ソウルを象徴する建造物であったソウル駅高架道路が、2017 年 5 月に歩行者専用道「ソウルロ 7017」として生まれ変わりました。「車が消えた車道に人を集めよう」というコンセプトのもとに行われたソウル市の大型プロジェクトにより、1年半の改修工事を経て、高架道路は人々の憩いの場として生まれ変わりました。今回はこの「ソウルロ 7017」を取り上げたいと思います。

「古いものは撤去及び開発の対象」という固定観念が見直された今、都心部の在り方を新たな着眼点で再考したり、老朽化した都市施設を再活用することで都市再生を試みる動きが注目されています。

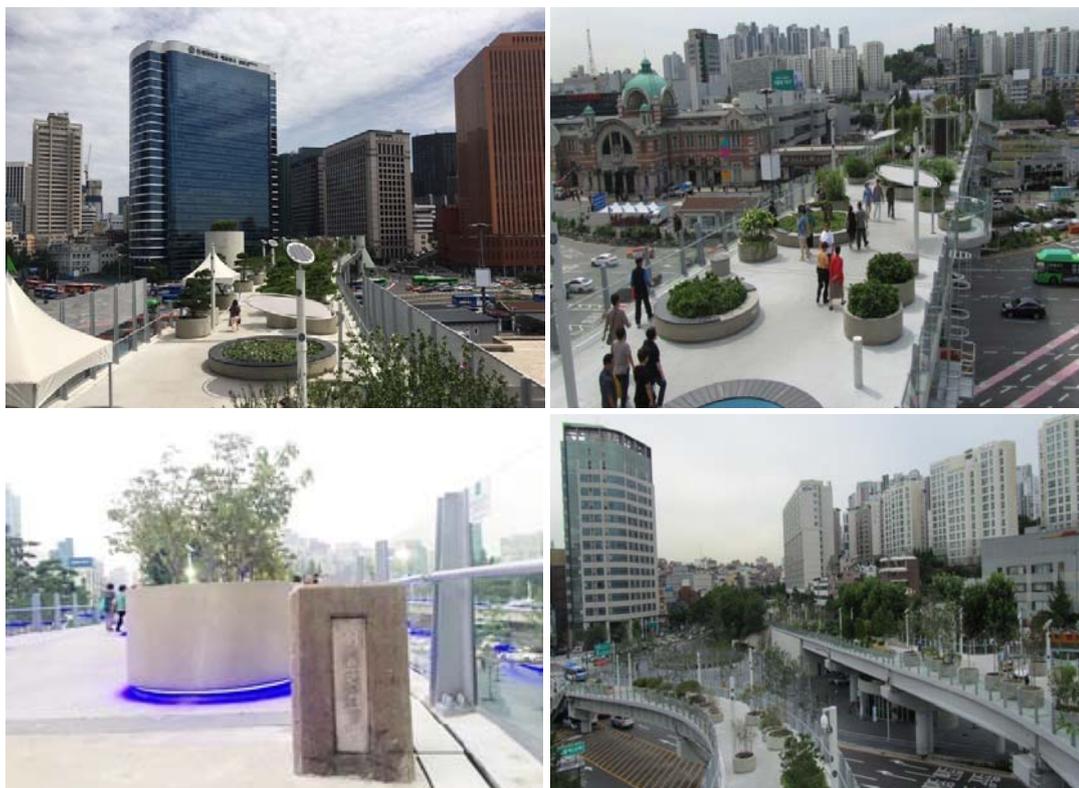
「ソウルロ 7017」プロジェクトは、「人」を中心とした都市再生と言えます。以前は歩行者にとってアクセスしにくかったソウル駅一帯を、車道を遊歩道として再生した「ソウルロ 7017」によって結びつけることで、地域の活性化および都心部の活力向上が実現しました。

ソウル駅高架道路は老朽化により撤去の危機に直面していましたが、地域に新たな活気を吹き込むため、ソウル市はこの高架道路を再活用することを決めました。その結果、橋梁の改修・補強工事により長さ約 1km の古い高架道路は市民の遊歩道として生まれ変わり、「ソウルロ 7017」と名付けられました。ソウルロ (ソウル路) は、ソウルを代表する「人の路」、また「ロ」は韓国語で「～へ」という意味を持つことから、「ソウルへ」という意味も込められています。「7017」は、1970 年に建てられたソウル駅高架道路が 2017 年に生まれ変わり、17 の歩道から成り立っている事を表しています。

様々な植栽が施され、まるで空中庭園のような「ソウルロ 7017」は、舞台公演を楽しんだり、遊び場や足湯などの各種施設が利用できる空間です。17 の歩道はソウル駅を中心として、南大門市場、南山など周辺の観光スポットへのアクセスを良くし、歴史、文化、ショッピングを楽しめる新たな徒歩観光ネットワークを形成しています。また、365 日 24 時間開放されているため、いつでも自由に歩きながら自然を感じることができる、ソウルの名所として発展していく事でしょう。

このような都市再生事業は、老朽化した施設を撤去して新しく建てるという従来の方式でなく、地域や建物に合わせた整備を通じ、都市の持続的な発展を支えるものであると同時に、経済効果も期待されています。今年 5 月に発足した文在寅(ムン・ジェイン)政権は、主な公約として都市再生ニューディール事業を掲げ、推進しています。この事業は毎年 10 兆ウォン、5 年間で総額 50 兆ウォン規模の予算が投入され、全国の対象地域 500 ヶ所を整備する超大型国策事業です。都市再生ニューディール政策を通じて新たな雇用を生み出し、関連産業の景気を活性化させるなど、成長の牽引役となることを期待しています。

都市再生で重要なのは、都市の緑地と交通体系が再編成され、単なる建物の再生を超えて、人文、社会、歴史、文化・芸術等の機能がうまく融合された街へと生まれ変わることです。「ソウルロ 7017」を歩いていると昔の高架道路がそのまま保存されている区間を目にすることができます。古い高架道路を残すことで、長い歳月を自分たちがどのように生きてきたのか、そしてこれから生きる歳月をどのように迎えるべきかを考えさせてくれるのではないかと思います。皆様も一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。



(上段左) ソウル駅側からみた「ソウルロ 7017」

(上段右) 左手に見えるのは旧ソウル駅舎

(下段左) 「ソウル高架」欄かんの名残

(下段右) 青坡洞と萬里洞方面へと延びる「ソウルロ 7017」 ※いずれも筆者撮影